

「リフィルジャパン」とは 給水スポットでマイボトルに飲料 プラゴミ削減目指す

毎日新聞 2019年6月7日 16時35分 (最終更新 6月7日 16時51分)



イベント会場に設置された水道直結式の仮設給水機＝東京都渋谷区で2019年6月2日午後0時18分、大場あい撮影

ペットボトルなど使い捨て容器の削減と地球温暖化対策、水分補給による熱中症予防の「一石三鳥」を狙い、街中で無料で利用できる給水スポットの普及を市民団体などが呼びかけている。取り組みを「リフィル（補充）ジャパン」と命名し、2020年東京五輪・パラリンピック会場周辺や観光地を中心に、21年度末までに全国5000カ所以上の登録を目指す。

事務局の市民団体「水Do！ネットワーク」（東京都台東区）によると、ペットボトル入りのミネラルウォーター（500ミリリットル）を自動販売機で買う場合、製造・輸送から廃棄までに燃料消費などで1本につき二酸化炭素が200グラム以上排出される。一方、水道水なら冷水機を使っても10グラム以下に抑えられ、マイボトルに入れて持ち歩けば、ペットボトル廃棄量も減らせる。

リフィルジャパンでは、給水スポットとして、マイボトルに水を補充できる飲食店▽公園や観光、公共施設などに設置された水飲み場▽イベント会場の仮設給水機――などを想定。水道水を使用し、誰でも無料で利用できることを条件に参加を呼びかけ、協力してくれる飲食店などをウェブサイト（<https://www.refill-japan.org/>）上の地図で案内する。地図は7月末ごろ公開予定。

事務局の瀬口亮子さんは「東京五輪・パラリンピックを、給水環境が整った街づくりを全国で進める契機にしたい」と話す。事務局への問い合わせは電子メール（info@sui-do.jp）。【大場あい】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.